

入院時食事療養費の負担額が変更となります。

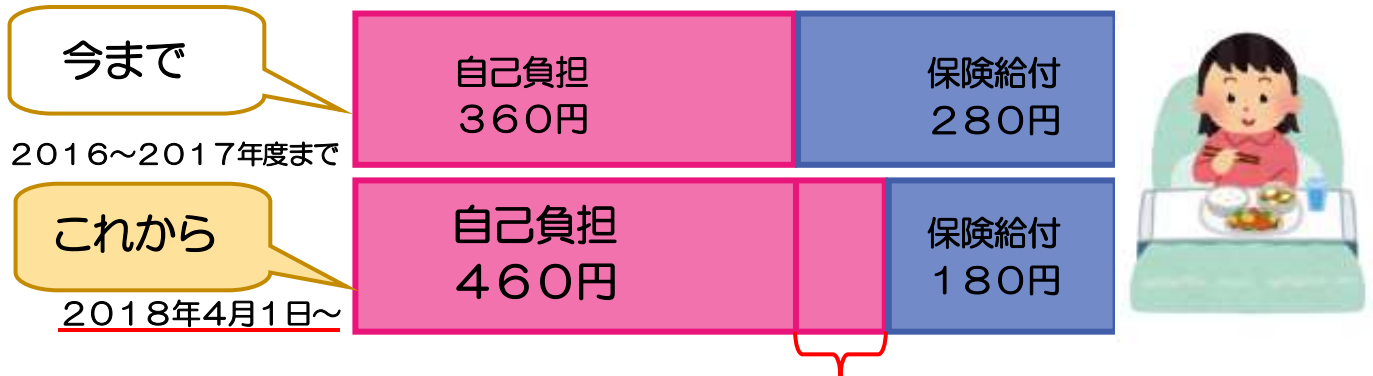
診療報酬改定に伴い、2018年4月1日から国の方針として、入院時食事療養費の患者さんのご負担額が一食360円⇒**460円**に変更となります。

増額分が病院の材料費に上乗せされるわけではないため、食事内容は今まで通りとなります。何卒、ご理解の程よろしく申し上げます。

【変更点】

2018年4月1日～：自己負担額 **460円**、保険給付 180円

1食あたり640円（現行どおり）



※今までより自己負担が100円増になります

出典 (公社) 日本栄養士会 医療事業部

※ 住民税非課税世帯を除く

医事課からのお願い

ひと月に一度、健康保険証・各種医療券を確認します。

保険で診療を受けられる場合は、健康保険証等を毎月確認し、保険者（保険証の発行元）に費用請求しています。

※以下の場合には、健康保険証・各種医療券をご提示ください。



- ① 初診時
- ② 再来時（月が変わってから初めて受診する場合等）
- ③ 会社を退職された場合（新しい保険証を提示下さい。）
- ④ 保険証や各種医療券の内容に変更があった場合



氏名、住所、電話番号等の変更をお知らせください。

氏名の変更や、お引っ越し等で住所・電話番号等に変更があった場合は、1番窓口「初診受付」にお申し出ください。

♪ お問い合わせ 医事課 ♪

♪ たまなんミニ通信をご希望の方は、患者支援センター地域連携部門までお問い合わせください ♪

慢性じんましんについて

じんましんとは？

「皮膚の一部が突然に赤くくっきりと盛り上がり、しばらくすると跡かたなく消えてしまう病気」をいいます。

数日から1～2週間で治ってしまう“急性じんましん”と、毎日のように出没を繰り返して、長いものでは何年間も続く“慢性じんましん”があります。



どうしてなるの？

じんましんには、特定の食品や、寒冷・機械的刺激のようなきっかけがあった時に現れるタイプのものもありますが、多くは何日にもわたって症状が出没します。

じんましんの背景には感染症、疲労やストレスなどの原因も考えられますが、慢性的の場合、ほとんどは原因がわかりません。多くは夕方から夜にかけて現れ、翌朝ないし翌日の午前中頃には消えて、また夕方から出始めるという経過をとります。

皮膚症状の他、全身倦怠感、関節痛、発熱などの症状がある場合は内臓の病気を疑い、詳しい検査を行う必要があります。



ちりょうほうは？

主な治療は抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤の内服です。塗り薬や注射は補助的に使います。

いくつかの薬の中から一番合うものを選びます。毎日きちんと薬を飲んで、症状がでるのを予防するのが治療の原則です。

これらの薬の副作用は、人により眠気、前立腺肥大や緑内障がある人はそれらの症状がひどくなることです。なお長期連用による影響は知られていません。

じんましんがでなくなってもすぐに内服をやめると再発することがありますので、医師の指示に従って薬を減らしたり中止したりしてください。

チェック

食事や日常生活において気をつけることは、

- 疲労やストレスをできるだけためないようにする
- 魚介類や肉類はできるだけ新鮮なものをとるようにする
- 防腐剤や色素を含む食品を控えめにする、などがあります。



じんましんの特徴的な症状があったら、早めに皮膚科専門医にご相談ください。

皮膚科 副医長 張本 敦子

☆当院は紹介予約制の医療機関のため、まずは、かかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。